

活動報告書

報告者氏名: 齋藤 枝里

所属: 大分県立臼杵支援学校

記録日: H.27 年 2 月 26 日

【対象児の情報】

・学年: 高等部3年生 女子

・障害名: 知的障がい

・障害と困難の内容:

- ・自発的な発語は少ない。「嫌」や「もう1回」などの意思表示はするが、いつも教師や周りの人からのアプローチに対して受け身で生活することが多い。
- ・言葉での指示を何となく理解しているように見えるが、はっきりとは理解できておらず、促されるままに行動することが多い。
- ・日常生活に必要な動作があまり身に付いていない。
- ・見通しが持てないことや、一度恐怖に感じたことに関しては、スムーズに取り組めないことがある。
- ・文字を読んだり書いたり、数を数えたりすることは難しい。
- ・興味の幅がとても狭く、余暇の活用が課題である。
- ・卒業後は、施設に入所して生活介護を受ける予定である。

【活動目的】

・当初のねらい

新学年になり卒業後、施設入所を希望するようになったため、施設生活に必要な動作を連携を図りながらまとめ、端末の動画機能を利用して学んでいく。動画の支援からカードでの支援、そこからなるべく少ない支援へと支援の数を減らしていく。また、検診が苦手なため、今までにもきちんと受けられないことがあったので、動画機能を使い見通しを持って検診にのぞめるようにする。

・実施期間: 平成 26 年 5 月～現在

・実施者: 齋藤枝里

・実施者と対象児の関係: 担任

【活動内容と対象生徒の変化】

・対象児の事前の状況

- ・衣服の着脱は概ね自立しており、小さいボタンやホックなども扱うことができる。襟などを整える時は、鏡を見るように促して「ここ」と教師が指し示すことで、鏡を見ながら整えることができる。しかし、脱いだ物は手で握ってまとめ、適当にロッカーに入れたり、床に投げたりすることが多かった。
- ・困ったことがあった時は、教師の手を誘導するなどして何となく伝えようとする様子が見られるが、伝わらないとそのまま諦めてしまうことが多い。

・活動の具体的内容と生徒の事後の変化

① 服の整理整頓: iMovie+カメラ機能

実習先から、自分で持ち物の管理をするためのきっかけとして、服を畳むことができるようになると良いという指摘を受けたため、動画を手本に脱いだものを畳む練習を行っている。そして、支援を『動画』→『写真カード』へと移行していく。



<生徒の変化>

初めは、机上で畳むように取り組んだ。教師が机の上に広げた物を畳むようにしたが、動画を見ながら手順通りに畳むことができるようになった。時折、動画や教師の言葉かけを受けなくても、自分から進んで一人で

畳むこともできた。

しかし、机上よりも立ったまま畳む方が実用的だと考え、立ったまま畳む練習にも取り組んだ。

自分で服を広げて持つということが難しい様子があったため、机上で畳む時と同様に教師が広げて手渡すようにした。

初めは持ち位置などが分かりづらく、好きな所を持って畳み進めようとする様子が見られていたので、服自体の持ち位置にシールを付けて持つところから、写真で提示された持ち位置を持つようにと段階を踏んだ。きちんと決められた位置を持つことができると、動画を見ながら畳むことができた。

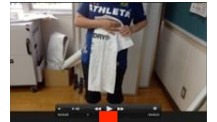
現在は、どこを持って畳むのかを理解し、教師が広げると自分から進んで服を持つことができ、更には広げて置いている服を自分で持って畳むことができるようになりつつある。

そして、写真カードの必要性を感じないくらい、手順通りに畳み進めることができています。

***机上で畳む ver.**



***立って畳む ver.**



② 自分で要求する活動：Keynote+ダウンロード

自分でしたいことを絵カードから選択して伝えることができるように取り組んだ。

しかし、シンボルの意味理解が難しかったため、カードに興味を持って意味理解を深めるために、好きな音楽を絵カードにして、聴きたい方をタッチしたらすぐに聴けるように Keynote で設定をした。

選ぶということが定着してきたら、iPad からアナログのイラストカードへ変えて、どちらかを選んで教師へ渡して要求するようにした。

その後、カードの種類を『飲み物』『行動』と、増やして選択できるようにしている。

***Keynote で
設定したカード**



<生徒の変容>

はじめは、iPad 中のカードをあまりよく見ずに選んでいた様子があり、タッチしたカードが聴きたい曲ではなかったことから、カードを見直して改めて選び直す様子が見られた。そのような経験を重ねるうちにシンボルの意味が理解でき、アナログカードもよく見て聴きたい曲を要求することができた。

飲み物のカードは、自分からよく選ぶカードになっており、「お茶」か「お水」をその時の状況に応じて選んだりする様子がある。

例えば、基本的に「お茶」のカードを選ぶことが多いが、お茶が無くなったことを理解していると、「お水」のカードを差し出すといった様子である。

また、「ごろん」という、少し横になりたい時に使うカードは、疲れていたり、あまり体調が良くなかったりするときに使う様子が見られ、今では、何種類のカードと一緒に貼られている中から、自分で選んで教師に渡し要求を伝えることができています。

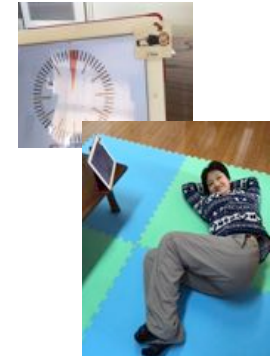
***Keynote の
カードを選ぶ ver.**



***アナログの
カードを選ぶ ver.**



***ごろんカードで要求**



【報告者の気づきとエビデンス】

・主観的気づき

- ・動画の手順表は写真だけの手順表に比べ、とても受け入れやすく、動作の手順の流れを把握しやすいようだった。

- iPadの絵カードをタッチしたらすぐに反応があるため、興味を引かれやすく、カードの理解がしやすいようだった。
- 「カードを渡したら伝わる」ということが分かり、自分から進んでカードを選んで教師に渡す積極的な姿が見られるようになった。

・エビデンス(具体的数値など)

○動画の手順表は、写真だけの手順表に比べて、とても受け入れやすく動作の手順の流れを把握しやすいようで、写真の手順表では、次の動作へ移れなかったが、動画は動作が具体的で3回程で大体の流れを一人で取り組むことができた。

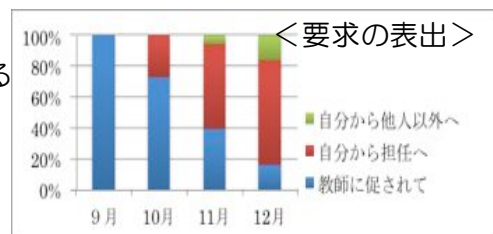
教師が、生徒の目の前で模倣をしてみる方法も取ったが、教師全体を意識してしまうのか、一番注視して欲しい所を見ることが難しかった。動画は、注目箇所を切り取って見ることができるので、生徒にはとても有効だと感じた。

○iPadの絵カードは、タッチしたらすぐに反応があるため、興味を惹かれやすく、カードの理解がしやすいようだった。最初の音楽カードの意味理解には、2週間程要したがその後の新しいカードはすぐに理解し、翌日には活用できた。

また、「カードを渡したら伝わる」ということが分かり、自分から進んでカードを選んで教師に渡す積極的な姿が見られるようになった。

自分から要求する姿は、だんだんと多くなり、担任以外の近くにいる教師へ伝える様子も増えている。

うまく伝わらないと感じた時は、指さしで実物を示すなど諦めずに伝える様子が見られている。



・その他エピソード(画像などを含めて)



絵カードの意味理解を深めるために当初取り組んでいた音楽カードを余暇の学習で活用した。カラオケを楽しむ際に、歌いたい曲を端末の中の写真から指さしして選び、「お願いします」と曲をカラオケ機に入れて欲しいことを伝えるようにした。

自分のお願いが伝わり、希望の曲が流れると進んでマイクを持ち、好きなフレーズを歌って思い切り楽しむ様子が見られた。

今のところ、本人が好きで選ぶ音楽カードが3曲だけではあるが、余暇の活用の仕方に少し広がりを感じた。

活動報告書

報告者氏名: 齋藤 枝里

所属: 大分県立臼杵支援学校

記録日: H.27 年 2 月 26 日

【対象児の情報】

・学年: 高等部3年生 男子

・障害名: 知的障がい

・障害と困難の内容

- ・記憶することが苦手で、予定を聞かれたり、振り返りをしたりする際になかなか思い出せない様子がある。
- ・地図を読むことが苦手である。
- ・生活面での経験不足が多く、自発的に行動することが少ない。買い物はできるが、自分では行くことがほとんどない。
- ・なかなか自分から積極的に行動できないが、教師や友だちが大変そうに仕事をしている姿を見て、何か手伝おうと行動する様子が見られる。
- ・自分がしなければならないことが目の前にあっても、周りのことが気になり手が止まるが多々ある。
- ・卒業後は、就職や生活自立に向けて宿泊型自立訓練、就労移行支援事業施設で2年間生活をする予定だが、具体的な生活をするイメージができていない。

【活動目的】

・当初のねらい

端末を利用して、予定や必要な物などをすぐにメモするなどして整理する。卒業後の自分の生活に必要な関係機関を、実習先で先輩方へ質問したり、調べ学習をしたりしてまとめ、マップにして生活の見通しが持てるようにする。

・実施期間: 平成26年5月～現在

・実施者: 齋藤枝里、担任

・実施者と対象児の関係: 所属学年の教員と生徒

【活動内容と対象生徒の変化】

・対象児の事前の状況

- ・下校後や週末など、塾やピアノ教室、サッカー教室などたくさんの習い事をしており、色々な経験をしながら過ごしている。しかし、その反面、自分に必要な物を買う経験などはあまりしておらず、自発的に行動をすることは少ない。
- ・記憶することが苦手で、昨日のできごとなどを教師に尋ねられた時に「何したっけ?」と、思い出せない様子があったり、自分のスケジュールの把握ができていなかったりする様子が見られる。
- ・また、自分で計画を立てることがあまり得意ではなく、いつも教師や周りの友だちの流れに乗って何となく行動している様子が見られる。

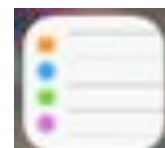
・活動の具体的内容と生徒の事後の変化

①持ち物や日程の管理: リマインダー+カレンダー

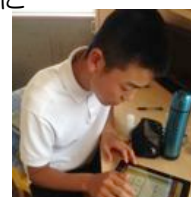
すべきことをメモしたり、忘れ物を減らすためにリマインダーを活用する。また、下校後や長期休暇時に予定が多いので、自分の日程を把握しておくためにカレンダーでのスケジュール管理を行う。

<生徒の変化>

持ってくるものや予定を、必要に応じて自分で考えて記入する様子が見られるようになっていたが、記入した物を見忘れてしまうことが多々起きる



リマインダー



ようになった。

生徒と、どのようにしたら良いかと話し合い、時間を決めたりタイマー音を付けたりという方法もあることを伝えてセットをしたこともあったが、結局は手元に iPad を持っていないために気づかず、見忘れて困ったことになることが多々あった。

このような経験を重ねるうちに、リマインダーやカレンダーを開くという意識が高くなり、自分から開いて確認するようになってきた。また、自動車学校に通い始め、効率良く通えるようにスケジュール調整の練習をした。

当初は、受けなければならない講義や自動車に乗る実技練習をきちんと理解できておらず、自動車学校の先生や、一緒に通っている友だちに言われるがままに受講しており、自動車学校を卒業

するまでの見通しが持てていなかった。そこで、講義内容と開講される日をカレンダーに記入し、受講した物から消して行くようにした。そうすることで、自分の未受講の講義が分かり、1ヶ月の中で受講チャンスを逃してしまいそうなものに関しては、それに合わせて予定を自分で調整することができた。

しかし、1ヶ月全体の調整はできるようになりつつあるが、1日の中で実技練習と講義の時間調整をし、うまく組み合わせて受講することは難しかったようで、効率の良いスケジュール調整には課題が残った。



* カレンダーで自動車学校の予定を管理



② 生活マップの作成：Google Maps+Bamboo Paper

自立した生活をするために、自分に必要なことは何かを教師と一緒に考え、進路先の先輩方の生活を参考にしながら必要な関係機関などをまとめる。

<生徒の変化>

初めは、自宅から市外にある進路先まで自力で行く練習をし、2回目の実習中には、休日は自分で荷物を持って帰省することができた。

また、居住予定場所の周辺にどのような施設等があるか散策をした。

地図では大体の場所が分かるものの、実際にどれくらい歩くのかが分からないようだったが、ナビゲーション機能の使い方を知ることによってどれくらい歩くのか見通しを持つことができた。

自分が歩くとGPS機能で歩いている場所が分かるので、地図を読むことに苦手意識を持っていた生徒も目的地まで確認をしながら行く事ができた。

また、体調を崩した時など、職場の先輩方がどこの病院を利用しているかを実習中に尋ね、地図上で自分がおおよその見当をつけていた場所と比べた。

自分が見当を付けていた場所よりも先輩方に伺った場所の方が近くて複数の診察をしてくださることが分かると、「やっぱり聞いてみてよかったです」と、写真を撮ったり地図に記入をしたりして積極的に記録する姿が見られた。



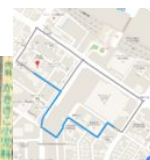
Google Maps



* 自力で通勤



* 居住予定地付近を先輩の意見を参考にして散策



【報告者の気づきとエビデンス】

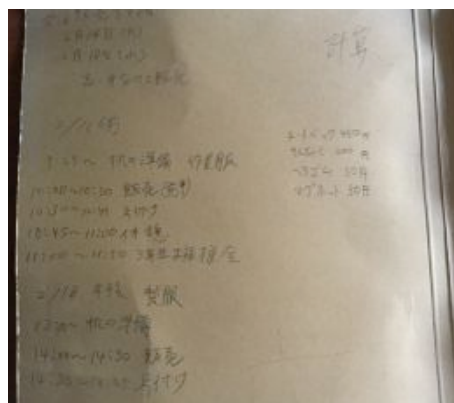
・主観的気づき

- ・端末をうまく活用して情報を得ようとする様子が増えた。
- ・メモをするという行為自体が記憶しておくことの手助けになっているようだ。
- ・漠然としていた卒業後の生活で気になっていることを積極的に話す様子が見られるようになった。

・エビデンス(具体的数値など)

- 教師や友だちとの会話の中から知らない言葉や事柄などを聞くと、すぐに端末を開いて調べて話題に参加したり、新しい情報を自分から提供したりしている。
- また、状況に応じて iPad だけでなく生徒自身が持っている携帯電話のカメラやインターネット機能を進んで活用する場面が多々ある。
- 特にメモをしたことは、自信を持って答えることができる。メモをしていても思い出せない時には、どこにメモをしたか把握しているので、自分ですぐに開いて確認をしている。
- 自分から教師に卒業後の生活について尋ねることが多くなった。内容も公共料金の支払いや年金についてなど、具体的なものになっている。

・その他エピソード(画像などを含めて)



作業学習で作った製品の受注販売の日程や卒業生の作業学習スケジュールを所属班で提示された際、手元に iPad がなかったが、自分から作業ファイルの表紙の裏にすぐにメモを取っていた。本人なりに、今後のスケジュールを班の中の最高学年として把握しておかなければならないと思った責任感と、自分がどこに書いたか忘れないように、必ず開くファイルの表紙の裏を選び、書いたとの事であった。大切なことをメモを取るということが、その時の環境に応じて自然にできている姿があり、ただ記入するだけでなく、その後、きちんと確認をするための工夫を行っていた。

